

## ケース7 北青山Dクリニック（東京都渋谷区）

### 「日帰り手術」メインに高度医療を結集 ニーズ高い下肢静脈瘤、鼠径ヘルニアの手術

北青山Dクリニックは、阿保義久氏が2000年10月、「大学病院レベルの質の高い医療を目指して」開業した。阿保氏の専門は外科だが、脳神経外科、消化器内科、循環器内科などの専門医師を非常勤で招き、癌、心臓病、脳血管障害といった三大疾患の早期発見・治療を行える環境を整備した。

これらの専門医師たちは、阿保氏が東大病院に勤務していたときの同僚で、今でも大学などに在籍し、週に1～2日だけ同クリニックで診療を行っている。平均年齢は36歳だ。

「彼らとミーティングを行うと、それぞれの専門分野の最新の知識を共有でき、医学知識のレベルアップができる。さらに、患者にとってベストの治療を考える上でのヒントも与えられる」と阿保氏は話す。

写真右上；北青山Dクリニックの入り口。クリニックの名前のDはDay SurgeryのD



写真下；下肢静脈瘤の手術風景



### 米国の外科クリニックがお手本

同クリニックの目玉は「日帰り手術」だ。対象疾患は下肢静脈瘤、早期の乳癌、胃や大腸のポリープや早期癌など。これだけの手術を日帰りで対応しているクリニックは全国でも珍しいと言えるだろう（表）。基本的に手術のほとんどは阿保氏が行っているが、疾患によっては非常勤の専門医が担当することもある。

開業するに当たって阿保氏がモデルとしたのは米国の医療だ。「米国では手術症例の70%は日帰り手術。覚醒が早い“静脈麻酔”を取り入れるなど、麻酔の使い方を工夫することで、日帰り手術はより安全なものになっている。開業するならば、日帰り手術を積極的に行うクリニックを作りたいと思った」と阿保氏。

#### ●表 クリニックで行っている日帰り手術

##### 外科

- ・下肢静脈瘤
- ・鼠径ヘルニア
- ・痔核
- ・巨大脂肪種
- ・乳癌（早期）

##### 形成外科・皮膚科

- ・眼瞼下垂
- ・皮膚皮下腫瘍
- ・シミ、ほくろのレーザー治療

##### 内科

- ・大腸ポリープ、早期大腸癌
- ・胃ポリープ、早期胃癌
- ・食道ポリープ、早期食道癌

##### 各科共通

- ・血管造影検査



阿保義久院長。  
東京大学医学部卒、36歳。  
「日帰り手術のニーズは予想以上だった。特に下肢静脈瘤に関する問い合わせが多い」

さらに、「外科医は手術を行いたいという思いが強く、そう簡単にメスを捨てきれない。日帰り手術には開腹手術のような派手さはないが、質が高く高度な医療を行っているという充実感がある」と阿保氏は語る。

### ホームページによる集患効果は大

阿保氏は、患者を集めるために開業と同時にクリニックのホームページを立ち上げた。すると、すぐさま「インターネットで日帰り手術を行ってみたいところを探していて、このクリニックのホームページを見つけた」などの反響があり、実際に来院する患者も相次いだという。

そのほか、口コミでも患者は徐々に増え、開業後10カ月の現在、1日の外来患者は約30人で、週に3例ほどの手術を行っている。

今のところ手術件数が多いのは、下肢静脈瘤だ。立ち仕事や妊娠などが原因で静脈の弁が壊れて血液が逆流し、こぶ状の静脈瘤ができる病気だ。近年、治療法が進歩したことで、日帰り手術が主流となっている。

そのほかでは、鼠径ヘルニア、初期の乳癌などの手術数も多いという。

「勤務医時代も開業した今も、忙しさには変わりはないが、開業してからは、やりがいや面白さが増したせいか、疲労感がずっと少なくなったようだ」と阿保氏は話している。